

第 2 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

| | |
|----------------------|--|
| 日 時 | 令和 2 年 9 月 7 日 (月) 午後 3 時 30 分 ~ 午後 6 時 00 分 |
| 場 所 | 安心館 3 階ホール |
| 出 席 委 員 (敬 称 略) | 部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、山本直彦、小出純子、後藤正明 |
| 議 題 | 1. 宇治市の地勢について 2. 検証・評価について (全体構想) 3. 課題と方向性について (全体構想) |

会議概要

| | |
|-------|---|
| 部 会 長 | 「宇治市の地勢について」、「検証・評価について (全体構想)」事務局より説明を。 |
| 事 務 局 | 資料説明 |
| 部 会 長 | ただいまの説明について意見・質問等あれば。 |
| 委 員 | <p>2040 年の人口予測について、社人研の推定だと 13 万 9,549 人で、人口ビジョンの目標人口とは開きがある。出生率は絶対に上がらない。これは確定と言っていいと思うので、目標人口はこうなったらいいなあということか。</p> <p>目標人口をどうやって設定したか説明されるのはそれでいいと思うが、設定したというよりは、設定になっているかという議論がある。社会移動ゼロにしたらこうなりますと言っているだけで、どうやってゼロにできるのか議論はしてない。だからこの数値には課題があるということは前提になる。ただ、そうしたいということは、そういう理解はしていいと思う。ただ、本来ここでの意見を踏まえた上で、計画人口を反映していくということを見ていくべきだと思う。</p> <p>人口の枠組みの議論をするのであれば、次回までには人口の予測の将来値が空間分布を、もし出ているのであれば出してください。それをベースにして、どういう将来のサービスクオリティを提供しようと思っているか。それでサービスクオリティがどう変わると予測しているのか。どちらであるのかということも含め、もう 1 度手法を含めて整理してください。</p> |
| 委 員 | <p>今までの都市計画は基本的に人口があって、それに対して器をどういうふうに整備したらいいかを議論している。だんだん大きくなっていく中身に対して器をどれだけ広げるかという議論だった。</p> <p>今は、器があって、中身がちょっとスリムになり、その器が少し弱ったり、傷んだりしている。その傷んでいるところは置いていても良いとか、ここはもっときれいにしようとか、そういうことを考える必要があるから、更にスリムになって小さくなる状況と、更に出てくる別の問題がある。たとえば財政が苦しくなる。その状況のなかで、どんな器を用意したらいいかの議論。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>結果としては、その将来の人口がどのように変わっていくかということについて、何を留意すればそのようになるかという議論を、一方では人口が結果として示されるべき話になる。</p> <p>予定として設定されるべき都市計画だったのが、結果として説明されるべき都市計画になっていると思う。あまり、在来型、従来型で予定としての都市計画、人口、将来人口みたいなのに固執しすぎるとよく分からなくなる。</p> |
| 委員 | <p>将来人口ビジョンとして行政ががんばりたいという思いを目標人口に託すということは、思いとしてはわかるが、データとしては、それが目指したい方向なので、指標として機能しないため、計画設計上は使えない数字になるのを、過去の宇治市の人口ビジョンでも拝見している。</p> |
| 委員 | <p>今の将来人口の絡みですが、将来人口の評価というところで書いてあって後ろのほうの施策は、参考資料とか見ると、これまでこれだけがんばってきたと評価されています。人口だけがなぜか将来目標を出して、それを評価と呼んでいるので、最初、結構違和感があった。本来、今の計画の将来人口を出していたのと比べて現在、上手いかなかったというようなところで、都市計画として何か考えていることがあったのではないかと。そういう評価になるのではないのかと思った。</p> <p>そこは、先ほどからの議論で、なぜ将来人口はそこまでならなければいけないのかという話になったときに、都市計画側で元々予定していた人口フレームを維持できなかった理由が何かあるのではないかとこのところを分析することが、次の施策に繋がるのではないかと。そういう視点でも見ていただければと思います。</p> |
| 事務局 | <p>これまでのマスタープランの目標人口というのは、総合計画で設定をしている数字をおりまして、その数字というのは、だいたい現状の人口ないしは少し増える程度そういった考えでやっておりましたので、今の都市の規模に対して、適正な街を考えようという視点でやってきました。</p> <p>しかしながら人口が、減っていくなかで、委員の皆様からもありました、そのリンクと言いますが、器が今あるなかで、それをどうスリム化していくのか、整理していくのかという視点になると、今までの視点から少し見直す必要があると考えております。</p> |
| 委員 | <p>宇治市の場合は、大学入学の段階で一挙に人口が減ることはないのかもしれないが、就職の段階では減ります。だから社会移動を全部ゼロにしますというのはなかなか難しい話だと思いますので、その辺の理由を考えていただく必要がある。</p> <p>産業があるほうが残りやすいのは事実だが、工業は雇用が少ないですから、それが何万人というオーダーにはならない。</p> |
| 事務局 | <p>転入者と転出者へのアンケート調査で、転出の主な要因でいくと、仕事の関係で、関東とか京都市、大阪府といった大都市に行っている。あとは結婚とかもそういうタイミングということで、仕事を要素として転出する傾向が大きいというところは状況として把握している。工業用地という働く場所を近くで用意するというのも、1つの方法ということでは考えていた。</p> |
| 委員 | <p>総合計画で考えられる人口に対して、それを丸受けで都市計画が前提にして計画を立てていくべきなのかどうか。もちろんその考え方もありますが、ただその場合には、やはりかなり無理があるということを確認しておく必要がある。そうすると、今日は、1つ検討したが、これ</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>では問題が多いので、再設定しましたということであれば、たとえば、標準の人口予測としての1つ。それから、もう少し、理想的な減少幅が少ない目標の人口予測と両方があって、その間でどうするかというのが現実的な問題になる。</p> <p>人口ビジョンは総合計画で問題になる目標の人口予想だと思うが、これは都市計画だけでコントロールできないところもある。それを示しておかなければならない。しかし、もう一方で、割と、現実的な予測で行けば、目標人口より低くなる。その線さえ崩れるようでは、確かに都市計画的にはいろんな問題である。だから、総合計画が、市の目標としてあるのであれば、その人口はそれは良しとしても、その間に準拠し得る2つぐらいの人口の予測があって、具体的にはどんな手立てを打つべきなのかを、戦略的に考えていくというのが現実的。</p> <p>そのときに、拠点がそれぞれどんな、役割りを演ずるべきなのか。結果として人口が増えるとか、どういう層の人がどんなふうに集まるのか、例えば若い人が集まるのか、お年寄りなのか、その辺りによって全然違ってきます。20年後ぐらいの話を見据えるなら、そのようなことを考えた都市計画になっていかなければならないのではないかなと思っています。その間をどう埋めていくのか、都市計画はどういうことができるのか、そういう議論の仕方もあるかなと思いました。</p> |
| 部 会 長 | 「課題と方向性について(全体構想)」事務局より説明を。 |
| 事 務 局 | 資料説明 |
| 部 会 長 | ただいまの説明について意見・質問等あれば。 |
| 委 員 | <p>初めは社人研の推計で行っていて、今度は地域分布の話があり、影響が出るのはまずいから再設定するという事になっているのだと思う。</p> <p>宇治市全体の人口はどれくらいになるかという話と、住宅地があるところとないところとか、住みやすいとか住みにくいか色々ある。六地蔵は、京都市との境目だから違いがある。人口がどうなるのかという話まで仮に予測ができたとして、このままではよくないので修正が必要だ。だから将来人口も上げた方にしますとなっていると思う。</p> <p>その数字の根拠自身もよく分からない所があるが、それでは影響が大きいというのは、都市計画上やはり看過できない。政策的な立場でそれで再設定するのは、第二期人口がビジョンで、合計出生率が上昇するような施策を合わせて、つまり住みたい、住んだら生みたいと思うような政策が必要。それを中心的テーマとして掲げ、まちを作っていくという立場として、この最初の設定とは違う、目標の人口予測設定したいということか。</p> |
| 事 務 局 | <p>宇治市としては一定の人口規模を確保したいのと、国も1億人を維持ということもあるので、そこは同じ方向を向いていきたい。その際、今言われた通り、子育て支援、合わせて社会移動ゼロということになっているので、都市計画マスタープランでもあった公共用地の確保とか、そういった意味では産業に重点を置いていく。そのなかでできる限り、目標に置いている人口ビジョンの達成に近づけたいという方向です。まちづくりの施策を追っていく上でそういった方向性でいろいろと施策の展開をしたいという認識を持っております。</p> <p>総合計画で人口をどう置くかは、まだ庁内でも議論をしているところです。宇治市の色々な施策を打つには直近4、5年は社人研の人口を見て、高齢者施策とか色々打っていく施策が多くあります。一方、総合計画で目標人口を定めるなかで、人口を増やしていく施策をいかに10</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>年で取り組んでいくかというところが重要になってくるので、総合計画では、おそらくこの社人研の人口と、目標人口を並列で設定するような形で、施策についてはそれぞれの人口に応じたものを展開していく設定になるのではないかと担当課としては考えます。</p> |
| 委員 | <p>都市計画マスタープランで、宇治市の人口プランに書いてある数字を遵守する必要があるかと言われたら、必ずしもそんなことはない。だからケースバイケースで、社人研ベースで見ていくような話があってもおかしくない。人口減を施策でどう戻すかという議論で、そこを予測し、施策を入れてどこまで戻せそうかを議論をすることになる。最初に、この目標だからこうなりますとすると話がおかしくなる。</p> |
| 部長 | <p>目標としての空間分布があるなら、それがあろうし、目標として最終的に達成されるであろうと思われる社会サービス水準みたいなものもあるのだから、それが指標に表れてくると思う。その辺の関連関係がまだ示されてないので、それについては追加資料を準備いただきたい。それがあれば非常に重要な資料になると思うので、そのモデルは、こういう理屈で、こうやって計算して、こう出しましたというところが分かりやすく整理されたものが必要だと思うので準備してください。</p> |
| 委員 | <p>都市機能は宇治市という大きな空間のなかで分担すべきものと、そうでないものと出てくる。要するにリモートで買い物ができるような環境になっている時代とそうでない時代は違う。この分担できるものをどのように地域にあるようにするか。それがあるところは、みんなから、そこにあったらうれしいと思われるというような整理の仕方もあるかと思えます。例えば、商業施設はみんなからそこにあったらうれしいと思われる地域にあればよしとするのも1つの整理の仕方だと思う。</p> <p>社人研の推計が現実的に起こりそうだとするのをまずベースにおいて、宇治市の人口目標を実現するには、どの施策を組み合わせたらできそうか、そういう形で考えたいというふうに書いてもらったらいいのだと思う。できるかできないかわからないけど、それは目標だということは確認できた。</p> <p>拠点の役割の見直しに関しては、拠点それぞれについていろいろ議論していただいて、特に六地蔵、近鉄小倉駅周辺の話については、商業の拠点として考えていたのに、大きな商業施設が撤退してしまったという状況にあるので、役割や考え方を見直す必要がある。</p> <p>土地利用の一部見直しのところは、工業地の環境改善と新たな工業用地の可能性というのがあってもいいが、全てではないと思えます。</p> <p>住環境改善は、宇治市の密集市街地の問題はどのようにするのか議論が分かりにくい。ずっとある問題だが、いくつかは改善してきており今後まだ更に本当にやるのか、もう少し踏み込まないと分からないと思えます。</p> |
| 事務局 | <p>拠点ごとに役割が違うので、役割ごとに求めるものも変わりますので、それに対して評価をしたいという思いは我々も持ってあったので、もう少しコンサルと研究を重ねていきたいと考えています。</p> |
| 委員 | <p>災害リスクは、今回結構大きい視点ではないかと思えますが、災害リスクをはっきり立てるといのは、新しい視点だと思う。</p> |

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>次の 20 年というのを見せないといけないということだから、ある程度都市計画にも発想転換が必要。1 度先生方にどんな発想転換が必要で、そのためにはどんな視点とか、あるいはどういう指標を含めて考えるべきかということの考えをお聞きできればいいと思う。</p> <p>これからは人口だけでなく、生活スタイルの問題というのが非常に大きい。どんな世帯がいるのか。今までとずいぶん違う多様な世帯がいるから、世帯の構成の仕方とか分布、生活スタイルというのがこれから都市計画を議論するときの非常に重要なポイントなのだという事は、もし可能であれば先生方に少し議論していただいて、どこかに少しそれを明示できればいいと思います。</p> |
| 委員 | <p>工業系については、住宅利用との混在が問題ということでした。交通に関しては駅等から一定の範囲内に住んでいる人の割合を問題にするのだったら、それより遠いところでは開発させないという話になっていく。ただそういう規制強化をすると、地価がどうしても下がりにくくなるので若い人が住みづらくなるという話もあり、都市計画マスタープランは、最終的には規制化事業に落とし込んでいくことになるので、その場合にどういうイメージで考えたらいいのか。</p> |
| 委員 | <p>生活スタイルの在り方が多様になってきている、そういうことに対応した小さい町の単位で、なおかつそれらの集積の都市の在り方というのがあると思うので、拠点の地区のそのまた更に小さい単位というのを見ていけたらなと考えています。そういう小さい集まりをあぶりだしたような提案ができればいいと思いました。</p> <p>私たちが徒歩で行ける、お年寄りだとか子供でも徒歩で行ける店舗が、暮らしに密着したそういうデータがもし見ることができたらいいと思いました。</p> |
| 委員 | <p>この先どう変わっていくのかという議論を、どこかでしておくほうがいいと思います。これから 20 年先を見たときに、人の生活のスタイルとか街の在り方とか、あるいは広域のなかでの宇治市の在り方とか、これから変わっていくであろうことを少し議論して何かしらまとめておく。部門別にも住宅地、色々問題あったけどもこう変わっていくだろうから、こういうスタイルを出していますよというようなことを議論しておいたらいいのかなと思います。</p> |
| 委員 | <p>最低限住環境が整ってない地域は、接道してない土地で、建て替えができるようになると、土地の値段があつという間にあがる。行政的に道路を通さないということはどうかということはもちろんあるのですが、一方で耐震改修の補助と一緒に使っていけば行政的にも絡みようがあるのではないかと考えますし、ひょっとしたら最低限の住環境が整ってない地域も、今は別の生き延び方っていうのがいいのかという気もします。</p> |
| 委員 | <p>20 年というスパンとはもっと違う大きな自然景観とか、その景観の保全みたいな話というのが、まとめのなかにあまりなくて、そういうものの価値を新しく、発見して活用を打ち出せるようなライフスタイルの提案というか、そういうものが土地利用の方針をもう少し整理するなかで 20 年ということを考えたら、もう少し大きな部分もあっていいのかなと思います。</p> |

| | |
|-------|---|
| 部 会 長 | <p>宇治市の梓の話だけしか説明出てこないですが、直近に南側では高速道路が開通しますし、バイパスも城陽バイパスのインターができてくるわけで、広域交通網は今後、数年間で大きく変わります。それに併せて今度はアウトレットモールとかもできてくる。そういうふうな状況の変化により、直近に、公共交通、道路網など影響を受ける。それから、JR 複線化ももうすぐです。宇治市の中とその外の周りとの変化があるという議論の中で、今、この将来に向かっての議論どう位置付けているのかというのが分かりにくい。</p> <p>将来に向けた、これが宇治の良いところですよというのが、まちづくりとして現れているようなマスタープランというのをどのように作るのかということも議論してシェアしていく必要がある。次回は、今の議論を受けて、全体構想の方針を決めましょうということですね。方向性として、それぞれのポイントだけ出しておいてもらい、それを先生方にそれぞれ項目について、重要なことを 1 回聞いてもらい、それを集約したうえで宇治市の方向性に活かす準備をしていただき次回資料を出してください。</p> |
|-------|---|